

教育こそ人類の諸課題解決の鍵

アメリカ創価大学（SUA）主催 第2回「世界教育者サミット」講演（要旨）

世界資源研究所副理事長 ワンジラ・マタイ

2021年7月4日 聖教新聞

アメリカ創価大学(SUA)の主催で第2回世界教育者サミット(6月13日)が行われた。ノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイ博士の息女で、世界資源研究所の副理事長を務めるワンジラ・マタイ氏の講演の要旨と、教育者として奮闘するSUA卒業生3人の活動報告を紹介する。



2005年2月、池田先生ご夫妻がワンガリ・マータイ博士（左端）を歓迎。ワンジラ・マタイ氏（左から2人目）も共に（東京・信濃町の旧・聖教新聞本社で）



ワンジラ・マタイ氏



ワンガリ・マータイ博士の名を冠したSUAの教室棟「マータイ棟」。環境に配慮した工夫が施されている

講演（要旨）

世界各国から多様性に富む教育者が集ったこのサミットは、世界にとって重要な役割を果たしています。なぜなら教育こそ、人類が直面している諸課題の解決の鍵だからです。気候変動を例にとれば、対策の予算の多くが、再生可能エネルギーの促進や技術革新に使われており、どれも重要ですが、一層問われるのは、それを扱う人間の在り方です。教育にあまり投資されていない現実を無視しては、どれだけ技術が進歩したとしても意味がありません。私の母ワンガリ・マータイは、砂漠化地域に植林を行う「グリーンベルト運動」を1977年に開始しました。運動の主体となったのは、学校に行けず、読み書きのできない女性たちです。母は運動を進める中で、貧困や雇用・教育格差、環境悪化、水や食料不足、森林減少

などの課題の奥底にある根本問題を見つけました。それは、人々の無力感です。社会の課題を見ても、人々は行動を起こすことができなかったのです。

なぜ解決を目指すのか

そこで、母たちは教育に力を入れるようになりました。セミナーを行い特定の課題を取り上げ、「なぜ解決を目指すのか」を考えました。次第に参加者は地域の経済や政治について関心を持つようになり、環境への意識が変わり、指導者の不正に気付くなどの大きな変化があったのです。運動はアフリカ各地に広がりました。環境保護と女性の地位向上に貢献したことで、母は 2004 年にノーベル平和賞を受賞しています。教育によって多くの女性たちが“自分には社会を変える力があるのだ”と気付くことができたのです。教育はなんと崇高な仕事でしょうか。今回のサミットのテーマは世界市民教育ですが、アメリカ創価大学の創立者である池田先生は、1996 年 6 月に米コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジで世界市民の育成について示唆的な講演をされました。これは、SUA の「建学の精神」の基礎になっています。特に池田先生が、訪れた国の数や話せる言語の数は関係ないと強調し、「国外に一回も出たことがなくても、世界の平和と繁栄を願い、貢献している気高き庶民を、私は数多く友人としております」と訴えておられることに感銘しました。世界市民にとっては、能力だけでなく、精神や行動こそが、より大切であるとの視座に賛同します。先生が語られた「智慧・勇気・慈悲」との世界市民の三つの要件からは、生命の連関性という基本認識が大切であると感じました。これは私たち人類にとって重要な考え方の枠組みを与えています。こうした視点を持ったとき、私たちは地球全体の自然保護へと、思いをはせることができるでしょう。

私は、**自然環境を守る取り組みに携わる中で、教育が解決の鍵となる四つのポイント**があると考えています。

第 1 に「**食料生産**」です。世界の人口が 2050 年に約 100 億人になると予想され、食料需要は今後増加します。しかし、それに伴って農地を乱開発し、環境が悪化し、結果として農業用の土地が減ってしまっ
てはいけません。農業に従事する人たちが、教育を通し、環境に優しく再生可能な方法で生産を進めら
れるよう支援していく必要があるのです。

第 2 に「**自然の保護**」です。ご存じのように、地球の清浄な空気はアマゾンなどの森林で生み出されて
います。しかし、樹木が減り、温室効果ガスである二酸化炭素の排出量が増えていると指摘されています。
“地球の肺”とも呼ばれる大森林を守ることが、環境悪化を食い止めるために不可欠なのです。

人の心を動かし仕組みを変える

第 3 に「**廃棄を減らす努力**」です。世界では、食料不足に陥る人々がいる一方で、多くの国で大量の食
品ロスがあります。特にアフリカでは、収穫、貯蔵、輸送における問題によって、作物や魚などが廃棄され
てしまう現状があり、今後、人々の心を動かし、仕組みを変えることが必要です。循環型経済の大切さを
伝えることで、地球の全ての恵みを生かすことにもつながっていくでしょう。

第 4 に「**再生**」です。植樹を成功させ、作物が元気に育つようにするために、アフリカでは、1 億ヘクタ
ルの荒廃した土地を再生させようと努めています。さまざまな主体からの投資が必要であり、ビジネスモ
デルとして確立し、次代に伝える必要があります。

アフリカ大陸の人々の年齢の中央値は約 20 歳(日本は約 47 歳)であることは、あまり知られていま
せん。若者たちが持つ変革へのエネルギーと熱意が問われてくるでしょう。彼らが世界市民として活動し、
奉仕する意味を理解し、より広い範囲に、良い変化をもたらす働きをできるよう教育を活用できると確信し
ます。より公正で持続可能な未来を築けるよう、共に頑張りましょう。

【プロフィール】ワンガリ・マータイ氏息女、環境シンクタンク「世界資源研究所」副理事長、アフリカ地域
ディレクターを務める。また、「ワンガリ・マータイ財団」の会長として、母であるマータイ博士の精神を広げ、
人々が主体性を持って社会変革に携われるよう活動してきた。2018 年と 20 年には、「最も影響力のある
アフリカの女性 100 人」の一人に選ばれた。